

魂をゆさぶれ!!

第25回

津軽三味線全日本金木大会

開催日：平成25年5月4日・5日（2日間）

会場：金木公民館大ホール

申込：津軽三味線全日本金木大会実行委員会

津軽三味線会館内 / 〒037-0202 青森県五所川原市金木町朝日山 189-3

TEL 0173-54-1616

FAX 0173-54-1023

メール syamisen@kanagi-gc.net

URL <http://www.kanagi-gc.net>



第24回大会

仁太坊賞 渋谷幸平（青森県）

主催 津軽三味線全日本金木大会実行委員会

主管 NPO法人かなぎ元気倶楽部

共催 津軽三味線歴史文化研究所

全日本津軽三味線友の会

五所川原市教育委員会

後援 東奥日報社／陸奥新報社

NHK 青森放送局／エフエム青森／RAB 青森放送

ATV 青森テレビ／ABA 青森朝日放送

五所川原市観光協会／五所川原商工会議所

金木商工会／金木あすなろ商店会

大会開催のご案内

審査委員長 大條 和雄

平成元年に第 1 回津軽三味線全日本金木大会が開催されてから、今年は 25 年の第 25 回記念大会を迎えました。記念大会を機会に津軽三味線を通して津軽の深層精神文化を述べたいと思います。

明治 14 年、欧化政策を推進していました伊藤内閣は学校教育に音楽教育導入を発表しました。その音楽は七音階の西洋音楽でした。この時太政官文書局の官吏だった津軽出身のくがかつなん陸羯南は西洋音楽無用論を唱えました。理由は、「日本の五音階で三味線を感じ動的に弾けるではないか！！」でした。

実は、明治 11 年津軽三味線の始祖仁太坊は弘前在の高崎から嫁「まん」をもらいました。その記念の意味を込めて、弘前藤代の浜の町川原で仁太坊自慢の「八人芸」を演じました。その時陸羯南は東京の法学校の学生でしたが、ある事件に巻き込まれ失意のうちに退学し弘前へ帰っていました。その羯南を覚醒させたのが浜の町川原の仁太坊の創作叩き三味線でした。この時聴いた仁太坊の撥音が骨の髄まで浸透し、やがて西洋音楽無用論となったのです。この史実が津軽の精神文化表出の好例なのです。

さて、今年の第 24 回大会の出場者は個人の部、小学、中高、シニア、一般 C 級、B 級、計 137 名でした。そのうちの 126 名が「じょんから節」でした。早く言えば「じょんから節大会」でした。

昨年私は講評で、じょんから節には旧節、中節、新節、新旧節、などがあって節もリズムも違います。選手の皆さんは何節を演奏するのですか、と問いかけました。何故なら「大会用じょんから節」と表現したいような確立化された、ワンパターン化された旋律になっていたからでした。

始祖仁太坊の教訓は「人真似でない汝が三味線」でした。

つまり、独創的なオンリーワンの三味線でした。

オンリーワンは創意工夫をしなければ出来ません。

換言すれば、知的構成ということになります。

仁太坊畏敬を要とする本大会は常に新鮮で知性に満ちた大会にしようではありませんか。

審査委員会からのお知らせ(重要)

個人の部について

津軽三味線全日本金木大会は、一貫して「人真似でない自分の三味線を演奏すること」を求め、国籍、流派、門下にかかわりのない個性を評価してきました。この姿勢が若手の登竜門とされる本大会審査の特徴であり、津軽三味線ブームに一定の役割を果たしたと自負しております。

しかし、近年は芸能界における津軽三味線の多様なポテンシャルばかりが露出し、津軽民謡それぞれの曲調をないがしろにする傾向が目立ちます。審査委員会では毎回このことが議論されており、少なくとも津軽地方で行われる大会の審査では共通した見解であろうかと思えます。審査委員長の大会案内にあります通り、ちゃんと津軽民謡を弾いてくださいということに尽きます。

ただし、個性的な聞かせどころはこれまで通り十分に尊重します。

また、本大会個人B級は他大会のA級で優勝できるほどのハイレベルな実力者がひしめいています。これまでのB級入賞者については、いつまでもこのクラスに固執しないで、A級に果敢にチャレンジして欲しいというのが審査委員会からの要望です。

団体戦のエントリー曲目について

(決定事項)

団体戦のエントリー曲はオリジナル曲ではなく、津軽三味線の曲弾き合奏に限定することにいたしました。

よって、エントリー曲名は何かしらの「津軽民謡」にさせていただきます。

(理由)

これまでオリジナルを評価してきたことが間違いなのではなく、津軽三味線の可能性追求に必要な役割を果たしたため、25回大会を契機に原点回帰をしようと審査委員会の意見が一致したことによります。

1. このごろのオリジナル傾向があまりに津軽とかけ離れていて、とても津軽三味線とは思えない異次元さを感じる。
2. 津軽三味線大会であれば津軽民謡の合奏を審査するのが本道である。
3. オリジナル曲は自分たちの発表会で披露すればよいのではないのでしょうか。

以上、審査委員会の意思と変更事項をお知らせします。

第25回 津軽三味線全日本金木大会 開催要綱

- 1 日時 平成25年5月4・5日の2日間 午前9時より開始
- 2 場所 青森県五所川原市金木町 金木公民館大ホール(TEL 0173-53-3581)
- 3 種目

	<個人の部>	定数(人)
	(1) 小学生以下の部	30
	(2) 中高生の部	30
	(3) シニアの部(60歳以上)	30
	(4) 一般の部C級(習得年数5年未満60歳未満)	30
	(5) 一般の部B級(習得年数5年以上60歳未満)	30
	(6) 一般の部A級(習得年数を問わず60歳未満)	なし
	<団体の部>	定数(団体)
	(1) 小学生以下の部(演奏者3人以上の団体)	5
	(2) 中高生の部(演奏者3人以上の団体)	10
新設	(3) 一般Cグループ(3人以上5人以下の団体)	5
	(4) 一般Bグループ(6人以上10人以下の団体)	5
	(5) 一般Aグループ(11人以上の団体)	5
	注意事項 ・団体の申込人数については大会当日の増員は認めません。(減員は可能) 流動的な場合は、あらかじめフルメンバーでお申込下さい。 受付期間内での増減の変更は可能ですのでお早めにご相談下さい。 ・ <u>団体へエントリーする際は一人一部門一グループとさせていただきます。</u> (掛け持ちの場合はグループが失格となります) ・ <u>団体のエントリー曲名はオリジナル曲名を不可とします。</u> (何かしらの津軽民謡であること)	

- 4 参加資格と定数
 国籍・流派・門下・所属等は問いません。
 地域振興のために参加希望者には可能な範囲で対応します。
- 5 演奏規定(個人の部 小学生以下、中高生、シニア、一般B・C級)
 (団体の部 全部門)
 - (1) 演奏曲目
 <個人の部>
 自身が得意とする「津軽民謡の曲弾き」を一曲披露します。
 <団体の部>
 「津軽民謡の曲弾き合奏」を一曲披露します。
 - (2) 演奏時間
 <個人の部> 3分以内
 <団体の部> 4分以内

(3) 出場順番

主催者において厳正に抽選します。(抽選はパソコンソフトで行います)
大会出場者には、4月中旬にプログラムを郵送致します。

6 演奏規定(個人の部 一般A級)

トーナメント方式による勝抜き戦です。予選トーナメントと決勝トーナメントがあり、出場人数によっては敗者復活戦もあります。対戦相手はステージ上にて抽選で決定します。

(1) 演奏曲目

- ・津軽五大民謡(じょんから・よされ・あいや・小原・三下り)の中からラウンドごとに課題曲を発表します。
各ラウンドの直前に客席からの抽選で課題曲を決定します。(重複無し)
- ・新節・旧節・中節・新旧節の選択については自由です。

(2) 出場順番

- ・当日は12時までに受付を済ませて下さい。
ノーシードの選手は、予選トーナメントから対戦を行います。参加人数によっては1回戦をシードされる場合もあります。
- ・前年度ベスト8の選手は1回戦がシードされ、2回戦から対戦を行います。対戦相手は抽選によって決定します。

(3) 審査方法

- ・一対一の曲弾き対決とし、審査員による勝敗の選択を電光掲示致します。
- ・トーナメントの進行状況は大型スクリーンで放映します。

7 申込み方法

(1) 申込先

津軽三味線全日本金木大会実行委員会

津軽三味線会館内

〒037-0202 青森県五所川原市金木町朝日山189-3

電話 0173-54-1616 FAX 0173-54-1023

- ・メールでの申し込みも可能です。
メールアドレス syamisen@kanagi-gc.net
- ・要綱・申込書はホームページでも公開します。
ホームページアドレス <http://www.kanagi-gc.net>

(2) 参加料(記念品を含む)

個人出場者・・・・・・・・・・3,500円

団体出場者・・ 1人につき 2,000円

(3) 申込み方法

現金書留または銀行振込でお申込み下さい。

銀行振込をご利用の方は、速やかに申込用紙をメールまたはFAXで送信して下さい。

○振込口座 青い森信用金庫 金木支店 カギデン

普通預金 0166148

ツガルシャミセンゼンニホノカギタカシヅッコウイイカイ

津軽三味線全日本金木大会実行委員会

○現金書留ご利用の方

受領証が必要な場合は、返信用封筒（80円切手貼付）を同封して下さい。

(4) 申込み期間

平成25年2月1日～3月31日

期間外ならびに当日申込はお受けできません。

キャンセルの際の申込金は上記期間内であれば返金可能です。(手数料差引)

(5) 大会日程・競技順序・予定時刻

定数から見た時間配分です。参加者数が決まり次第、後日プログラムにてお知らせしますのでご了承下さい。

<1日目/5月4日>

開会式	8時50分
1.個人小学生以下	9時00分～10時30分頃
2.個人中高生	10時40分～12時10分頃
3.団体小学生以下	13時10分～13時30分頃
4.団体中高生	13時40分～14時20分頃
5.個人シニア	14時40分～16時10分頃
6.個人一般C級	16時20分～17時50分頃

<2日目/5月5日>

新設	開始挨拶ほか	8時50分
	1.個人一般B級	9時00分～10時30分頃
	2.団体一般Cグループ	10時45分～11時05分頃
	3.団体一般Bグループ	11時15分～11時35分頃
	4.団体一般Aグループ	11時45分～12時05分頃
	5.個人一般A級	13時30分～16時00分頃
	仁太坊賞受賞者再演	16時15分頃終了

(6) 当日受付時間

午前8時00分から随時受け付けております。

各部門の予定時刻を参照の上、遅滞なくお願いします。

予定時間はあくまで目安です。

※当日のご連絡はこちらの携帯へ（携帯番号：090-1376-1737）

8 表彰

<個人の部>

各級共通・特別賞を含む8人まで表彰されます。

○1位から3位まで・・・賞状・トロフィーまたは楯・賞金

○入賞・・・・・・・・・・賞状

○大條和雄賞

・個人・中高生・シニアの部/各2名・・・賞状・楯

・個人・一般の部B級/2名・・・賞状・楯

・個人・一般の部A級/2名・・・賞状・楯

○参加賞／参加者全員

仁太坊(にたぼう)賞／個人一般の部A級優勝

津軽三味線の始祖、仁太坊にちなむ賞です。受賞者は「仁太坊まつり」においてゲスト奏者として演奏していただきます。(9月予定)

白川軍八郎賞／個人一般の部A級準優勝

金木町不動林出身、仁太坊最後の弟子、津軽三味線の神様と称される白川軍八郎にちなむ賞です。

黒川桃太郎賞／個人一般の部A級3位 (2名)

金木町嘉瀬出身、始祖仁太坊の弟子、津軽民謡中興の祖、通称「嘉瀬の桃」にちなむ賞です。

大條和雄賞

津軽三味線ルーツ解明者、大條和雄氏にちなむ賞です。

個人各級(小学生以下の部を除く)の中からオープンで選出されます。

<団体の部>

各グループ共通で6組まで表彰されます。

○1位から3位まで・・・賞状・トロフィー・賞金

○入賞・・・・・・・・・・賞状

○参加賞／参加者全員

9 審査委員 (予定)

審査委員長	大條和雄	(作家、津軽三味線ルーツ解明者)
審査委員	阿保敏秋	(随筆家)
	澤田勝仁	(津軽三味線奏者)
	森 国慶	(東奥日報社 五所川原支局長)
	柳野 耕	(陸奥新報社 五所川原支社長)
	成田 太	(財団法人日本民謡協会 青森竹泉津軽)
	工藤信悟	(ギタリスト)

10 文化イベントのお知らせ／5月3日開催

津軽三味線巡礼を開催致します。資料代1,000円(当日受付)。

時 間： 13時～17時

講 師： 大條和雄

内 容： バスを利用して、津軽の原風景を巡り、仁太坊の里を辿ります。

(※別紙チラシ参照)

11 その他

当日のプログラムは50円の有料化となります。

本大会の運営継続にあたり、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

交流会開催のお知らせ

発起人

津軽三味線会館 館長 伊藤一弘

津軽三味線全日本金木大会は、全国の皆様からのお力添えにより第 25 回目の開催を迎えることとなりました。

これまでに賜りましたご厚情に対し、関係者一同深く感謝を申し上げます。

こんな小さな町の手づくり大会ですが、この四半世紀にわたる歴史の中で多くの人々が集い、多くの人々と触れ合うことが出来ました。私たちは皆様との絆を誇りとしており、この先も変わることはありません。

ここは大会だけの殺伐とした場所ではなく、津軽三味線を手にしたすべての人々のルーツの場所です。

この大会がこれからも皆様にとって里帰りの日であり、ホームカミング・デイになりますようお願いしてやみません。どうか交流会へお気軽にご参加ください。

開催予定日時 5月5日 大会終了後

開催予定場所 五所川原市内にて

どなたでも参加できます。(会費制となります)

大会申込書に交流会参加の希望欄がありますので、人数をご記入の上ご予約ください。

大会エントリー締め切り後に詳細をお知らせします。

大会記念誌「仁太坊群星」へ寄稿のお願い

第 25 回記念大会終了後に、大会記念誌「仁太坊群星」第三版の編纂を開始します。記念誌では皆様の参加履歴のほか、たくさんの思い出を掲載いたしますので、お気軽に寄稿していただきますようお願い申し上げます。

内容、文体は自由です。

ただし、誹謗中傷にかかわるものはお受けいたしません。

原稿用紙 3 枚ぐらいまでを目安としてください。

2013 年 9 月末までに、大会実行委員会(津軽三味線会館)宛にお送りください。

以上